

女子美制作・研究奨励賞 達成・進捗報告書

田中直子

1. 制作・研究の動機・目的

1938 年の児童画コンクール「日独伊親善図画」についての研究を行なっています。「日独伊親善図画」とは、1938 年に日独伊防共協定の親交を築くためのイベントとして、森永製菓株式会社によって企画された児童画コンクールです。6 歳から 17 歳の日本(朝鮮、台湾、満州、南洋を含む)、ドイツ、イタリアの男女が応募することができました。募集期間は 4 月から 6 月の 3 ヶ月間で、日本国内だけで応募総数は約 400 万点、応募学校は約 1 万校までに昇っています。

日独伊親善図画を本格的に研究し始めたのは、2015 年からです。先行研究が見当たらないなか、国内外問わずフィールドワークを行ってきました。また、その研究結果を 2018 年 6 月に「平成 30 年度女子美術大学大学院博士前期課程修了制作作品展(前期修了)-日独伊親善図画-80 年前の児童画を巡って-」として女子美ギャラリーニケにて企画・展示を行いました。

本展は、ヨーロッパで発見した日本児童による日独伊親善図画を拝借し、関係者のインタビューと共に展示し、解説だけではなく、日独伊親善図画を巡って繰り広げられる人々とアートの関係性についても考えられる内容にしました。

本展での様々な反響を受けて、研究を更に深めたいと考え、女子美制作・研究奨励賞に応募しました。研究の発展に繋がるチャンスになると思ったからです。

本研究は、歴史のなかに埋もれていた日独伊親善図画の概要明らかにし、過去と現在を行き来する日独伊親善図画の価値について考えます。また、戦前の児童画史研究にも一石を投ずることを目的としています。

筆者は 2018 年 9 月に女子美術大学大学院美術研究科デザイン専攻博士前期課程アートプロデュース研究領域を修了し、2019 年 4 月より、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻キュレーションコース博士後期課程に在籍しています。

2. 研究活動

● 2019 年 4 月

東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科アートプロデュース専攻キュレーションコース博士後期課程に入学。日独伊親善図画に関する研究を続ける。

● 2019 年 6 月

都美セレクトショングループ展 2019『星座を想像するようにー過去、現在、未来』への参加。本展のために、2018 年 9 月頃より企画と構想を作家 6 名と考えました。企画公募でしたが、採用が決まり、実現されました。筆者はキュレーター兼作家として展覧会に関わりました。展覧会終了後にはカタログも制作し、販売しました。

➤ 「都美セレクトショングループ展」について

東京都美術館が、新しい発想によるアートの作り手の支援を目的として、企画公募により開催する展覧会です。2012 年のリニューアル以来毎年度実施し、2019 年度で第 8 回目の開催となります。東京都美術館という場所の意味や館内にあるギャラリー A・B・C の空間の特性を活かした、展覧会を実施しています。弊グループはギャラリー A での展覧会を行いました。

➤ 詳細

会期：2019 年 6 月 9 日（日）～30 日（日）＊21 日間

会期中休室日：6 月 17 日（月）

時間：9:30～17:30（但し、特別展開催中の金曜日は 20:00 まで）

展覧会会場：東京都美術館 ギャラリー A

主催：過去・現在・未来を考える、東京都美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）
～参加作家～

加茂昂、スクリプカリウ落合安奈、瀬尾夏美、田中直子、中村亮一、平川恒太、古堅太郎（50 音順）

➤ イベント

ギャラリートーク 6 月 9 日

会場：東京都美術館 ギャラリー A 時間：15:30～16:30

出品作家 7 名によるギャラリートーク

参加作家によるクロストーク 6 月 30 日

場所：東京都美術館 講堂（定員 225 名）時間：14:00～16:30

前半(14:00～)は田中直子(本展出品作家) による『日独伊親善図画』についてのトーク。ゲストに辻 政博氏(帝京大学 教育学部 教授)をお招きします。後半(15:15～)は出品作家によるクロストーク。

➤ グループについて

土地の記憶や人々の言葉を集め制作する瀬尾夏美と加茂昂。時間や国籍、文化からアイデンティティとは何か探求し制作するスクリプカリウ落合安奈と中村亮一。忘却される歴史にコンセプチャルな手法で光を当てる、平川恒太と古堅太郎。戦前に描かれた児童画“日独伊親善図画”を研究する田中直子。それぞれ扱うテーマは異なりますが、社会という大きな物語の中で個人に焦点を当て表現して来たアーティスト達による展覧会を通した対話を目的とします。

本企画を機会に個人と社会に向き合い制作する作家同士さまざまな意見交換をし、新たな視点の獲得、そして各々のテーマや表現活動における、さらなる発展ができることを目指します。昨今、様々な問題を抱える国際社会の中でアーティストが、コマーシャリズムでも地域芸術でもなく社会とアートに向き合える環境・グループを作っていきたいと考えています。

➤ コンセプト・メッセージ

夜空を見上げると無数の星々が輝いています。この星々は何光年という長い時間を経て私たちの目に小さな光を届けます。私たちはその小さな光を結び夜空に星座を描きます。

現在を生きる人であれば誰もが過去、現在、未来を持っています。しかし、遠い過去と現在の自分、遠い未来と現在の自分を結びつけることは容易ではありません。過去から学ぶという行為は人類が長い歴史の中で蓄積した膨大な情報によって人類のみが可能なことです。しかし、その膨大な情報も目を向けなければ無いも同然です。夜空の星も見なければ真っ暗の闇のように。本展では、過去の歴史から現在の私たちの生きる姿を見つめ、まだ見ぬ未来を想像します。

➤ 筆者の研究展示について

本展では、日独伊親善図画の原画とインタビュー映像、関連資料を展示。新しい史料としては、新たに見つかった児童画 2 点を追加し、1939 年に東京都美術館で行われた日独伊親善図画の展覧会についてリサーチを新たに行い、その解説を展示しました。

➤ 筆者の研究展示の意義

日独伊親善図画は 1939 年に東京都美術館で受賞作品の展覧会を行っており、約 80 年ぶりとなる同会場での展示となりました。展示構成は、主に女子美ガレリアニケで行なった展覧会の縮小版ですが、グループ展として展示構成も考慮しました。また、本店は学外で行う初めての展覧会となります。

また、『星座を想像するようにー過去、現在、未来』のコンセプトとしても、日独伊親

善図画を展示することは、実際に過去現在未来を横断する作品として、本展のコンセプトをよりリアルで立体的にしました。美術と教育、そして戦争について、それらが現代にも繋がっているということを考える場になったのではないかと思います。

➤ 成果

美術作家とのグループ展だったため、様々な領域の方にご覧いただきました。

本事実（日独伊親善図画が東京都美術館で展示されたこと）について、東京都美術館の学芸員の方は知らず、また同館は関係史料を収蔵していないことがわかりました。筆者の研究進展のみならず、同館にとっても意味のある展示になったと思います。

「日独伊親善図画」にまつわるトークイベントも最終日に開催しました。質疑応答で「想画」の質問が出ました。「想画」に関する研究は、筆者も以前から気になっており、改めて、研究との関連性と必要性を感じることができました。

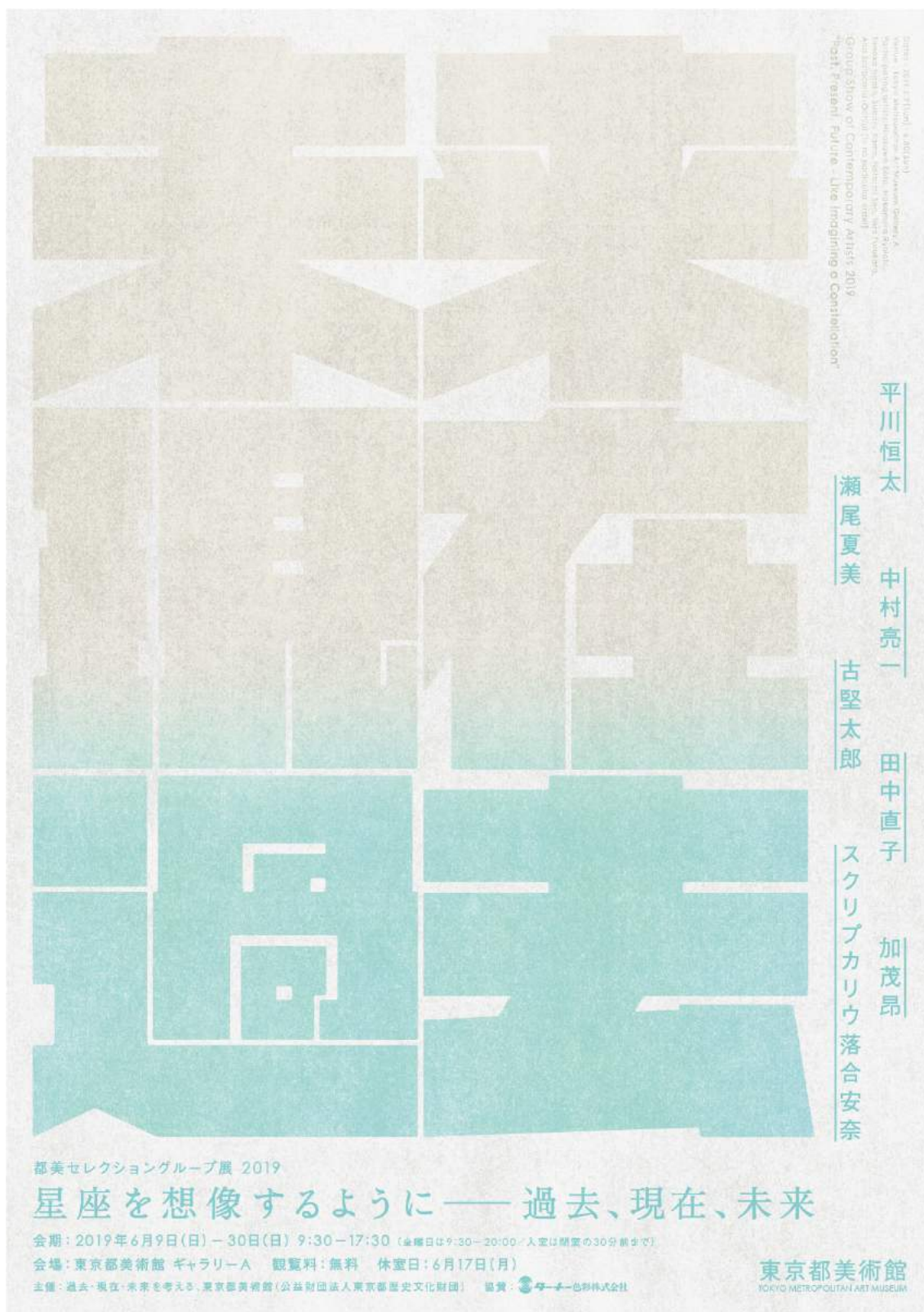
最後に、スクリプカリウ落合安奈さんがお祖父様の日独伊親善図画の賞状を所持していることがわかり、新しい研究材料が増えました。



展示風景



(上)ギャラリーA 展示会場風景 (中) トークイベント会場 (下) トークイベントの様子



© 2019 Tokyo Metropolitan Art Museum. All rights reserved. Group A
Selected by the Tokyo Metropolitan Art Museum. Exhibition Group A
Exhibition Title: "Constellations" (星座を想像するように) — Past, Present, Future
Artists: Hara Hirota, Nishikawa Ryo, Tanaka Naoko, Kashiwa Ryo, Kashiwa Ryo
Group Show of Contemporary Artists 2019
Past, Present, Future: Like Imagining a Constellation

平川恒太 中村亮一 田中直子 加茂昂
瀬尾夏美 古堅太郎 スクリプカリウ 落合安奈

都美セレクショングループ展 2019
星座を想像するように——過去、現在、未来
会期: 2019年6月9日(日)ー30日(日) 9:30ー17:30 (金曜日は9:30ー20:00・入室は開業の30分前まで)
会場: 東京都美術館 ギャラリーA 観覧料: 無料 休室日: 6月17日(月)
主催: 過去・現在・未来を考える、東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団) 協賛: 株式会社カラー

東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

都美セレクショングループ展 2019

星座を想像するように——過去、現在、未来

会期：2019年6月9日(日)ー30日(日) 9:30ー17:30 (金曜日は9:30ー20:00/入室は開室の30分前まで)

会場：東京都美術館 ギャラリーA 観覧料：無料 休室日：6月17日(月)

参加作家：平川恒太・中村亮一・田中直子・加茂昂・瀬尾夏美・古堅太郎・スクリプカリウ落合安奈(順不同)

主催：過去・現在・未来を考える、東京都美術館(公益財団法人東京都歴史文化財団) 協賛：カラー印刷株式会社



夜空の星々を繋ぎ星座を描くように、現在を生き表現する7人のアーティストの仕事を展覧会を通して繋ぐことで未来を想像しようと試みます。星の光は何光年もの時を経て私たちの目に届きます。私たちが生きる現代も長い歴史の上にあります。その歴史や現代を繋いだ先に未来があるように。本展では、過去の歴史や現代社会を見つめ表現する7人の作家の仕事から未来を想像します。



(一設目)
左：平川恒太「ブラックカラータイマー」2016-2017年*
中央左：中村亮一「a study of identity」(部分)2016-2019年
中央右：田中直子「日蝕伊賀善国画」2018年
右：加茂昂「語りと読みの痕跡の光景の装置」2017年*
(二設目)
左：瀬尾夏美「あたらしい未来」2017年*
中央：古堅太郎「空想な指輪」2018年*
右：スクリプカリウ落合安奈「Infect」2018年*
(Photo) 川崎一純
(写真提供) スパイラル / 株式会社ワコールアートセンター
*は参考作品

グループプロフィール

土地の記憶や人々の言葉を集め制作する瀬尾夏美と加茂昂。時間や国籍、文化からアイデンティティとは何かを探求し制作するスクリプカリウ落合安奈と中村亮一。忘却される歴史にコンセプチュアルな手法で光を当てる、平川恒太と古堅太郎。戦前に描かれた児童画「日蝕伊賀善国画」を研究する田中直子。それぞれ扱うテーマは異なりますが、社会という大きな物語の中で個人に焦点を当て表現して来たアーティスト達による展覧会を通じた対話を目的とします。

ギャラリートーク

6月9日(日) 15:30ー16:30 場所：ギャラリーA(本展会場)

出品作家7名によるギャラリートーク。

クロストーク

6月30日(日) 13:30 開場、14:00ー16:30 場所：東京都美術館 講堂(定員225名)

前半は田中直子(本展出品作家)による「日蝕伊賀善国画」についてのトーク。ゲストは辻 政博氏(帝京大学 教育学部 教授)。

後半は出品作家によるクロストーク。当日先着順、定員になり次第、受付を終了します。

ギャラリートーク、クロストーク、いずれも参加無料。事前申込不要。直接、実施場所にお集まり下さい。詳細はグループのウェブサイトへ。

<https://kakogenzaimirai2019.wixsite.com/kakogenzaimirai><https://www.facebook.com/kakogenzaimirai2019/>

問合せ先：kakogenzaimirai2019@gmail.com

東京都美術館

TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36

Tel: 03-3823-6921 <https://www.tobikan.jp>

JR上野駅公園口より徒歩7分/東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅7番出口より徒歩10分

京成電鉄京成上野駅より徒歩10分

*駐車場はございませんので、車での来場はご遠慮ください



展覧会チラシ

● 7 月

『プレイバック ザ・カナガワビエンナーレ カナガワビエンナーレ国際児童画展 開催 20 回記念特別展』（場所：神奈川県民ホール）に参加。

➤ カナガワビエンナーレ国際児童画展について

1979 年の国際児童年を契機に、神奈川県が唱えた「民際外交」事業のひとつとして、「カナガワビエンナーレ国際児童画展」を 1981 年に第 1 回展を実施して以来、隔年開催を続けています。本団体はこれまでの受賞作品をコレクションしており、そのコレクション約 900 点を全て展示するという壮大な試みです。この度、特別展として日独伊親善図画の展示も一緒にさせていただきました。80 年代から現在に至るまでの児童画達と、30 年代の児童画を同時に見ることができる空間となりました。日独伊親善図画は東京都美術館の約 2 倍の数を展示しました。

➤ 展覧会詳細

会期：2019 年 07 月 25 日(木)～2019 年 08 月 03 日(土)

場所：神奈川県民ホールギャラリー

みなとみらい線日本大通り駅 3 番出口より徒歩約 8 分

時間 10:00～18:00 入場無料

主催：神奈川県、神奈川県立地球市民かながわプラザ（公益社団法人青年海外協力協会）

共催：神奈川県民ホール（指定管理者 公益財団法人神奈川芸術文化財団）

県民ホール展示情報サイト：

<https://www.kanakengallery.com/detail?id=36060>

公式カナガワビエンナーレ国際児童画展サイト：

<https://www.earthplaza.jp/biennial/>

➤ 展覧会参加の意義

参加経緯は、昨年 6 月に女子美ギャラリーニケで行なった日独伊親善図画の展示にありました。展示へお越しになった方から、カナガワビエンナーレの名刺を頂戴し、筆者が「受賞したことがあります！」と一言申したことから始まりました。筆者は中学校の時にカナガワビエンナーレ国際児童画展に、応募し表彰されたという過去があります。その後、カナガワビエンナーレ国際児童画展の特別記念展を行うことを知り、筆者の中学校時の児童画も展示されることがわかりました。

カナガワビエンナーレは、1981 年以降、世界から児童画を募集している児童画コンクールです。応募作品は基本的に収蔵しています。日独伊親善図画の年代からは離れますが、日本で国際的な児童画コンクールを継続して行い、児童画の収蔵も行っている数少ない団体の一つです。

今回、日独伊親善図画の特別展を行うにあたり、本年度カナガワビエンナーレの審査会（審査員：遠藤彰子氏、猿渡紀代子氏、中野仁詞氏、水沢勉氏、山下裕二氏）を見学させていただくことができました。児童画コンクールの審査会を初めて見学し、大量の児童画を審査していく工程など大変勉強になりました。また、児童画を保管している倉庫や、運営のお話などを聞かせていただくこともできました。

本展について、神奈川新聞が取り上げてくださったことで、日独伊親善図画の応募者の方からの問い合わせがありました。後にその方への取材も行いました。結果的に新しい研究材料を増やすことができました。



展示風景

プレイバック ザ・カナガワビエンナーレ!

Looking back at the history of Kanagawa Biennial!

**入場
無料**

第1回展 (1981年) 開催チラシ

第2回展海外向け募集ポスター (1982年)

第8回展 (1995) 東京民ホールギャラリー会場写真

「夢見た80年前の児童画たち」より

**2019年
7月25日(木) ▶ 8月3日(土)**

10:00 - 18:00 (入場は17:30まで)

神奈川県民ホールギャラリー (横浜市中区山下町3-1)

会期中無休

神奈川県民ホール
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
☎045-662-5901 (代表) FAX045-641-3184
<http://www.kanagawa-kenminhall.com>

- みなとみらい線-日本大通り駅から徒歩約8分
元町中華街駅から徒歩約12分
- JR-国府線または石川町駅から徒歩約15分
- 市営バス-青木町駅・NHK前下車徒歩2分
横浜駅東口バスターミナル2番のりば乗車(所要時間約25分)
石川町/(スターミナル2番のりば乗車(所要時間約10分))
※上記のりばから乗車するバスはすべて「芸術劇場 NHK前」を通過します。
但し、14時以降発車は除く。
- 新田原駅から西行バス「山下公園・みなとみらい地区・東レナガビル」行
(約30分)「大規模」バス停下車
- 県民ホール有料駐車場(84台)もご利用下さい。

- ・カナガワビエンナーレ国際児童画展の第1回展(1981年)から第19回展(2017年)までの大賞と特別賞の作品900点近くを展示します。
- ・過去の作品集や資料の展示もあります。
- ・80年前に、日本、ドイツ、イタリア間で6歳から17歳までの児童画を交換しその親善を図った展覧会「日独伊親善図画」が企画されました。《プレイバック ザ・カナガワビエンナーレ》展では、80年前の日本の子どもたちが描いた絵100点以上を展示します。

共催 神奈川県民ホール(指定管理者:公益財団法人神奈川芸術文化財団) 神奈川県立地球市民かながわプラザ(指定管理者:公益社団法人青年海外協力協会)

プレイバック ザ・カナガワビエンナーレ！

40年間の国際児童画展の歩み

《カナガワビエンナーレ国際児童画展》は、過去を振り返る展覧会を、国内と海外で何度も開催しています。鎌倉の神奈川県立近代美術館(1985年)、中国の遼寧美術館(1984年と1988年)、米国メリーランド州の公立図書館イノック・プラット・フリー・ライブラリー(1986年)、ウクライナのオデッサ州立美術館(1990年)、ドイツのシュツットガルト市役所(1992年と1999年)などです。2016年には、県内の大賞作品(第1回展から第18回展)と、海外と県内の入選作の一部を紹介した回顧展を神奈川県立地球市民かながわプラザで開催しました。

今回開催する《プレイバック ザ・カナガワビエンナーレ》は、第1回展(1981年)から第19回展(2017年)までの大賞作品と特別賞作品を合わせた900点を紹介する今までにない大規模な回顧展となります。

《カナガワビエンナーレ国際児童画展》が誕生した頃(1980年)の世界は、東西冷戦の影響で起きたモスクワオリンピックのボイコット問題、韓国の光州での民主化運動、イラン・イラク戦争の勃発、中央アメリカのエルサルバドルでの内戦などが起きています。日本では、戦争の傷跡を改めて思い起こさせた中国残留孤児たちの初来日が1981年にありました。

40年間に応募してきた作品には子どもの視線から描きとめた世界の動きがあります。そして、自分の住む国・地域で起きた悲しい出来事や、普通の平和な日常生活や学校生活を、さまざまな見方と想いで子どもたちは描いています。

作品のひとつひとつは創造の入り口です。その創造の世界を楽しんでください。

カナガワビエンナーレ国際児童画展開催20回記念特別展
《プレイバック ザ・カナガワビエンナーレ》内の企画展示

《帰国した80年前の児童画たち》について

今から80年前、日本、ドイツ、イタリアの間で、6歳から17歳までの児童画を交換し、その親善を図る展覧会「日独伊親善図画」が企画されました。日本側は、森永製菓が企画・主催し、全国の児童から400万点に及ぶ絵画を集めました。森永製菓の企画意図は、国情も生活も環境も相違のある子どもたちが、共通の言葉を持たないなかで、仲良くなり理解しあうには、図画(絵)こそ世界の共通語と思い、この展覧会を企画・主催したと、同社が1939年12月に発行した図録「日獨伊親善図画」で述べています。



「帰国した80年前の児童画たち」より



《帰国した80年前の児童画たち》は、《日独伊親善図画ー80年前の児童画を巡ってー》展(2018年6月、女子美術大学ガレリアニケにて開催)を企画した田中直子氏(当時、女子美術大学大学院前期博士課程に在籍)の全面協力により開催します。

田中直子プロフィール

1994年生まれ。女子美術大学アートプロデュース研究領域博士前期課程修了。100周年記念大村文子基金2017年度「女子美ミラノ賞」受賞。100周年記念大村文子基金2018年度「女子美制作・研究奨励賞」受賞。現在、東京藝術大学国際芸術創造研究科博士後期課程在籍。

1938年に企画された日本、ドイツ、イタリアの児童を対象とした児童画コンクール「日独伊親善図画」について研究をしている。2018年6月には日独伊親善図画の原画をヨーロッパから集めた展覧会を企画。

日独伊親善図画HP <http://naokotanaka.wixsite.com/1938>

※田中直子氏は、12歳の時、第14回カナガワビエンナーレ国際児童画展に出品し特別賞(かながわ国際交流財団会長賞)を受賞しています。手にしているのは受賞作《湯葉丼一丁!!》卵でとして、できあがり!!!。

展覧会チラシ

◆ 研究調査

10 月

日独伊親善図画の応募者・植木孝子さん(90)へ取材を行いました。

10,11 月

Eva Friedrich Thoma さんのコレクションの中から、児童画がまとまって発見された小学校数校へ問い合わせを行いました。京都府綾部小学校の村上校長先生のご協力もあり、コレクションされている児童画の作者を発見へ繋がりました。京都府綾部小学校とはその後もコンタクトを取り続けています。

本件については、10 月 28 日『あやべ市民新聞』、11 月 14 日『京都新聞』で取り上げていただきました。

◆ 今後の具体的な活動

京都府綾部小学校とのプロジェクトや取材

インタビュー記録映像作成

女子美紀要集での論文発表

◆ 目標

研究論文の発表

海外での展覧会

日本の美術館での個展

書籍の出版

3. 結び

女子美術大学を昨年 9 月に卒業してから、様々な出来事が起こりました。東京都美術館での展覧会は、キュレーターとしても初めて活躍できた機会となりました。グループ展だったということもあり、年齢も異なる作家同士で展覧会をつくることは貴重な経験となりました。カナガワビエンナーレも、女子美ガレリアニケでの展覧会の繋がりにより開催され、自身の児童画と共に展示されるという大変奇遇な機会となりました。

現在は、女子美術大学ではない所で研究を進めていますが、新しい視点や価値観を取り入れながら、自分の研究がどのように進められるべきなのか改めて考えています。

「日独伊親善図画」の研究に関しては、まずは「知ってもらいたい」、「作者を見つけたい」という気持ちが根本にあるため、今後も展覧会は積極的に行って行きたいと思います。また、研究していく上で、日独伊親善図画(1938 年)とその前後の年代における美術教育史を整理し、主に日本の児童画教育を推奨した人々の言説からその思想や芸術観について考察しつつ、現代社会における児童画の価値についても検討することも試みたいです。

この度、研究奨励賞をいただけたことで、自信が付き、さらに上を目指そうという気持ち

が芽生えました。これからも、新しいことへの挑戦を恐れず、自分らしく進んで行きたいと思います。そして、将来は自身も挑戦し続ける人を応援できる人になりたいと思います。

◆ 掲載情報

WEB 版 美術手帖

<都美セレクション グループ展 2019[星座を想像するように一過去、現在、未来]>

https://bijutsutecho.com/exhibitions/4093?fbclid=IwAR0Hj2izwAipfFmyIFaNyLy8OrkEqgUGXmF4mHtr45Eqi5hVoMCsxbxq_go

神奈川新聞

<カナガワビエンナーレ国際児童画展>

<https://www.kanaloco.jp/article/entry-184624.html>

10 月 28 日 あやべ市民新聞

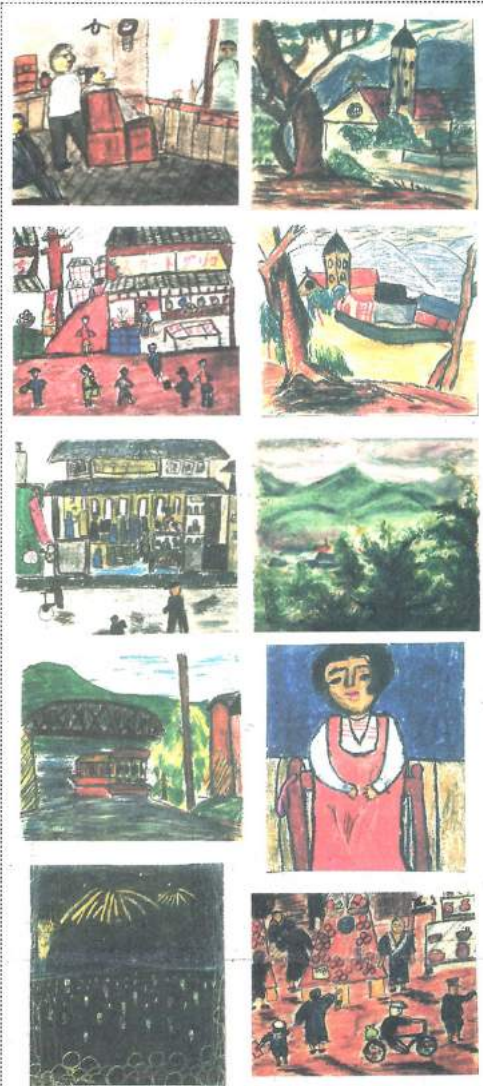
11 月 14 日 京都新聞



7 月 26 日 神奈川新聞

綾部小 作者を捜しています!

80年前のコンクール作品がドイツで見つかる



「日独伊親善図画」に応募された作品

「日独伊防共協定」祝い森永製菓が募集

1938(昭和13)年にあった児童画コンクール「日独伊親善図画」に応募した当時の綾部尋常高等小学校(現綾部小学校)児童の絵画10点が、ドイツで見つかった。調査に当たった東京藝術大学大学院の博士課程に在籍中の女性から同校に連絡があり判明したもので、所有者のドイツ人女性(90)が作者を探してほしい」と願っている。同校では「綾部小学校支援協議会」略称「綾小応援団」にも作者を調査している。(四万寿生)

3年生児童の絵画10点

東京藝大・院生の女性が連絡

同校に東京藝大の院生である田中直子さんから連絡があったのは今月初旬。寄せられた情報によると、コンクールは前年に結ばれた「日独伊防共協定」(昭和13年)を祝い、森永製菓が主催した。全日本から応募総数は400万点に上り、審査を通った約14万点ずつ

商店や町並み、水無月大祭の花火・万灯流し、綾部大橋など

がドイツ・タタリア画そのすべてが田中さんの父が描いたという。数年前ドイツの女性宅に300点の絵画が所蔵されていたのを田中さんが発見。今年6月に東京都美術館で展覧会を開くなど、現在は所蔵部町という記載

20、24年度の5年間、まちづくりと創生法に基づいて少子化や人口減少問題などの課題に取り組むため今年度に決定する。開催時間は午後6時～同8時半。市民公募する30人を始め、各地9人で計10店になる。作者は現在90歳。作品には商店の様子や町並み、水無月大祭の花火・万灯流しのほか、丹陽教会と見られる建物や綾部大橋の近くを舟が航行する姿などが描かれており、合作生とされたタッチで描かれている。特に綾部大橋の色は現在の青色とは違っており、描かれた昭和10年代の暮らしが分かる資料としても価値が高い。作者の元居蔵は現在90歳。調査によつて兵庫県尾山在住の池田南

絵に関する情報提供は綾部小へ

絵に関する情報提供や問い合わせは同校(☎42・0290)へ。



あやべ市民新聞社
〒652-0046 姫路市大蔵町554
電話 総機 0773 421125 分機 1125
FAX 総機 0773 421149 分機 1149
E-mail ayaabecity-news.jp
郵便振替口座 0000-0-10338

Original Pay to You
このマークの加盟店で、
5%還元
Pay
3%還元
8%還元

10年後の綾部を話し合おう。市は、一般参加者を募集して、今年度は住民アンケートや意見交換会など。第6次市総合計画(6市総)と第2期市地方創生総合戦略(2創総)の策定に向け、11月28日に青野町の市ものづくり交流館で「市民ワークショップ」を開催する。6市総の計画期間は2021～30年度の10年間。来年度の策定に、創総の計画期間は2021～24年度の5年間。まちづくりと創生法に基づいて少子化や人口減少問題などの課題に取り組むため今年度に決定する。開催時間は午後6時～同8時半。市民公募する30人を始め、各地9人で計10店になる。作者は現在90歳。作品には商店の様子や町並み、水無月大祭の花火・万灯流しのほか、丹陽教会と見られる建物や綾部大橋の近くを舟が航行する姿などが描かれており、合作生とされたタッチで描かれている。特に綾部大橋の色は現在の青色とは違っており、描かれた昭和10年代の暮らしが分かる資料としても価値が高い。作者の元居蔵は現在90歳。調査によつて兵庫県尾山在住の池田南

区自治会連合会や関係団体、市・府議員など計70人が出席し、姫路山崎大の谷口知弘教授をファシリテーターに、議論を促進する進行役にして話し合う。問い合わせは市企画政策課(☎42・4215)へ。